

問1 弥生時代に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏に使いを送った政治的な理由として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選択してください。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。
- 律令国家の仕組みを学ぶために、魏の進んだ法制度や官僚機構を日本に導入して中央集権化を図るため。
- 鉄製農具の使用を全国に普及させるため、魏から大量の鉄資源を安価に輸入する独占的な貿易ルートを確保するため。
- 日本列島に迫っていた魏の軍事的侵攻を回避するため、多額の貢ぎ物を持参して講和を結ぶため。

問2 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

- 青銅器
- 鉄器
- 埴輪
- 磨製石器

問3 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山公立入試 類似）

- 高床倉庫
- 竪穴住居
- 環濠集落
- 前方後円墳

問4 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2017年 岡山公立入試 類似）

- 石包丁と高床倉庫
- 銅剣・銅矛と高床倉庫
- 石包丁と竪穴住居
- 和同開珎と高床倉庫

問5 弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したもののとして最も適切なものはどれか。（2020年 大分県公立入試 類似）

- 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。
- 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。
- 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。
- 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。

問6 中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国が朝貢した際、光武帝が印綬（印とひも）を授けたという記述があります。この記述を裏付ける資料として、福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印について説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 佐賀公立入試 類似）

- 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。
- 円形の形状に鏡のような光沢があり、邪馬台国の卑弥呼が魏から授かったものである。
- 木簡と呼ばれる細長い木の板に墨で刻まれており、当時の税制度を詳しく示している。
- 聖徳太子が隋の皇帝に死てた手紙の内容が、金印の表面に細かく刻まれている。

問7 西暦57年から16世紀末までの歴史的な出来事をまとめた年表において、3世紀の項目に「倭の女王が魏に使いを送る」という記述があります。この時、女王卑弥呼が中国の王朝と外交関係を結んだ主な背景や目的として最も適切なものはどれですか。（2019年 茨城県公立入試 類似）

- 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進められるため
- 鉄資源を独占するために、朝鮮半島南部の任那（加羅）に日本府を設置する許可を得るため
- 仏教を正式な国教として導入するために、大陸から僧侶を招き、寺院建設の支援を受けるため
- 中国で確立されていた律令制度を学び、天皇を中心とした中央集権国家をいち早く形成するため

問8 弥生時代に製作された青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面には当時の生活の様子や動物の文様が刻まれている「銅鐸（どうたく）」は、主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

- 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた
- 集落間の戦いにおいて、敵を攻撃したり威嚇したりする武器として用いられた
- 収穫した穀物を煮炊きしたり、保存したりするための調理器具として用いられた
- 衣服を織るための繊維を整えたり、糸を紡いだりするための機織り用の道具として用いられた

答え合わせ・解説

問1	答え 1 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。	2世紀後半の日本は「倭国大乱」と呼ばれる激しい内乱状態にありました。これを収めるために共立されたのが女王卑弥呼です。彼女が魏に使いを送った主な目的は、中国という当時の東アジアの超大国から「親魏倭王」という称号を授かることで、国内の他の勢力に対し、自分が正当な支配者であることを誇示することにあります。授かった銅鏡などの宝物も、その権威を裏付ける道具として利用されました。なお、律令制度の導入は飛鳥時代以降の課題であり、この時期の目的ではありません。
問2	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問3	答え 1 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問4	答え 1 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問5	答え 1 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭りに深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問6	答え 1 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。	福岡県の志賀島で発見された金印は、一辺が約2.3cmの正方形の台座に、蛇がとぐろを巻いたような形のつまみ（蛇鈕）がついています。これは当時の中国（後漢）が、周辺地域の支配者に授けた印の形式と一致しており、1世紀の日本と中国の交流を証明する貴重な物証となっています。
問7	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため	当時の倭（日本）は多くの小国が分立し、争いが続いていた時期でした。邪馬台国の女王である卑弥呼は、当時の中央アジアから東アジアにかけて強大な勢力を持っていた魏の皇帝に朝貢し、自らを王として承認（冊封）してもらうことで、その権威を背景に国内の連合体制を強化しようと考えました。これは、中国の皇帝を中心とした国際秩序を利用した外交政策の一環です。
問8	答え 1 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた	銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器の一つです。当初はつり下げて鳴らす楽器として使われていたと考えられていますが、次第に大型化し、豊作を祈るための祭礼や儀礼において重要な役割を果たす「祭祀具（さいしぐ）」として用いられるようになりました。表面に刻まれた鹿や農耕の様子などの文様は、当時の生活や信仰を知るための貴重な史料となっています。